

## ◆ 今週のコメント

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が2例あり、型はいずれもO157です。本年の累積報告数は、73例で、型別にみると、O26 33例、O103 5例、O145 3例、O157 32例となっています。
- RSウイルス感染症の報告が1例(0～5ヶ月)あり、4週続いています。第33週～第36週の累積報告数をみると、平成16年～平成19年は0例でしたが、本年は6例と多くなっています。

## ◆ 今週のトピックス:<百日咳>

- 今週は、2例報告があり、第32週から5週連続で報告があります。年齢は、2例とも20歳以上です。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数報告の感染症

- 二類:結核 9例(喀痰塗抹陽性 3例, 無症状病原体保有者 1例)  
【1月以降の累積報告数 261例(喀痰塗抹陽性 85例, 無症状病原体保有者 23例)】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症(O157 VT1VT2) 2例【1月以降の累積報告数 73例】

### 定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.44	100
	② 手足口病	0.66	27
	③ ヘルパンギーナ	0.51	21
	④ 水痘	0.46	19
	⑤ 突発性発しん	0.37	15
眼科	流行性角結膜炎	0.50	5

### 病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、咽頭ぬぐい液をNP、糞便をFC、髄液をSF、尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
ポリオウイルス1型(2)	突発性発疹(第17週) かぜ症候群(第17週)	NP NP

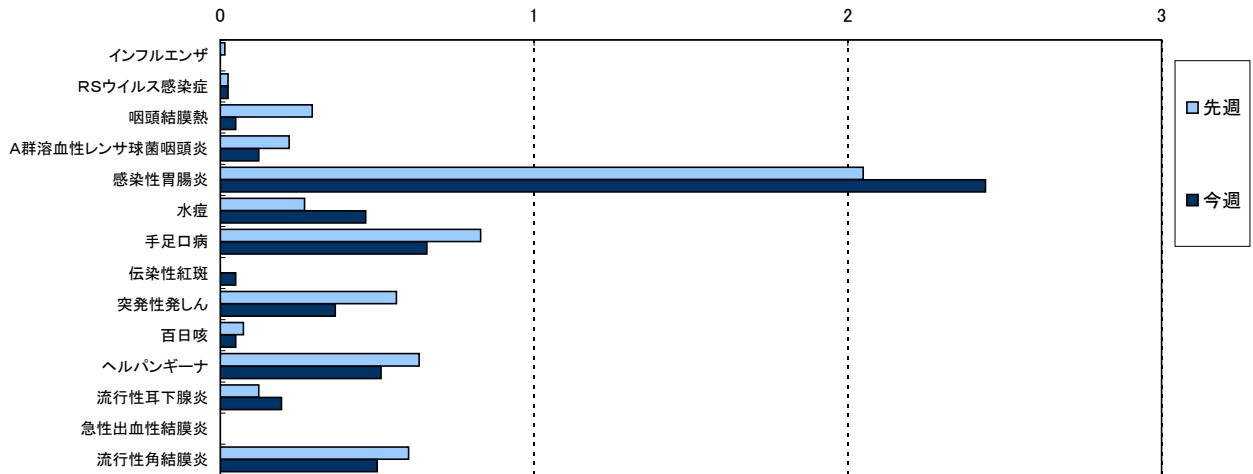
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<百日咳>

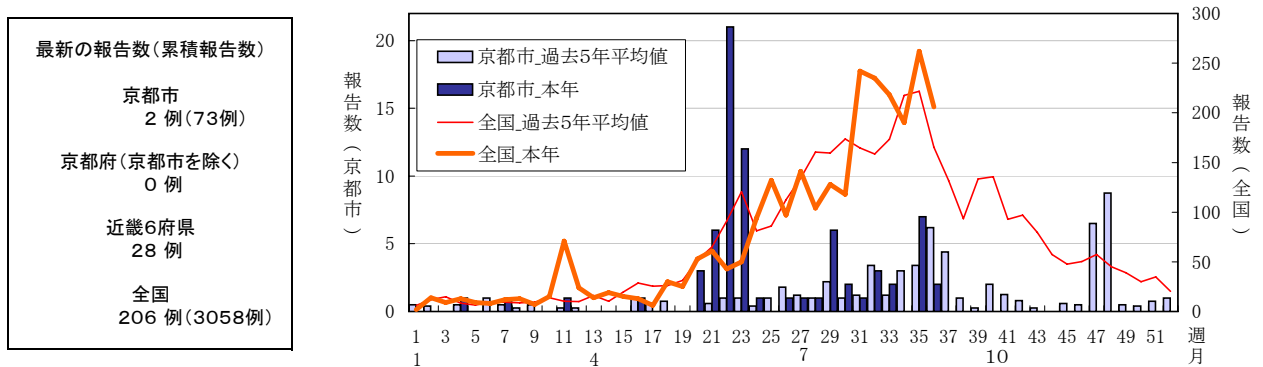
(注)京都市のデータは、平成20年9月11日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。  
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第36週)と先週(第35週)の定点当たり報告数の比較

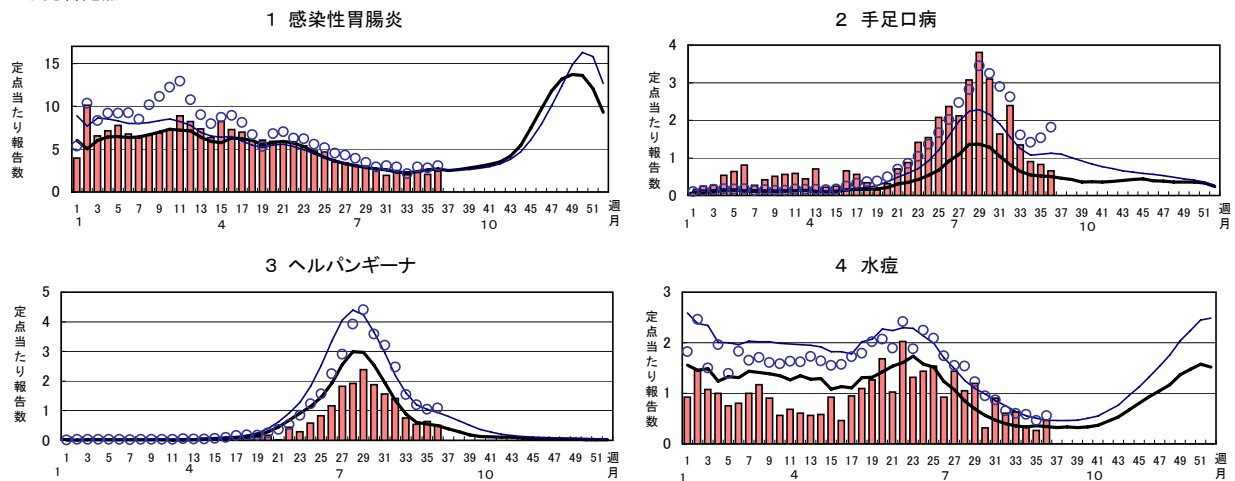


## 2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

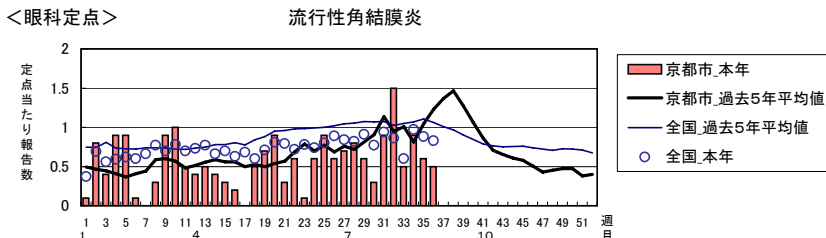


## 3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



# 今週(第36週)のトピックス: <百日咳>

今週は、2例報告があり、第32週から5週連続で報告があります。年齢は、2例とも20歳以上です。

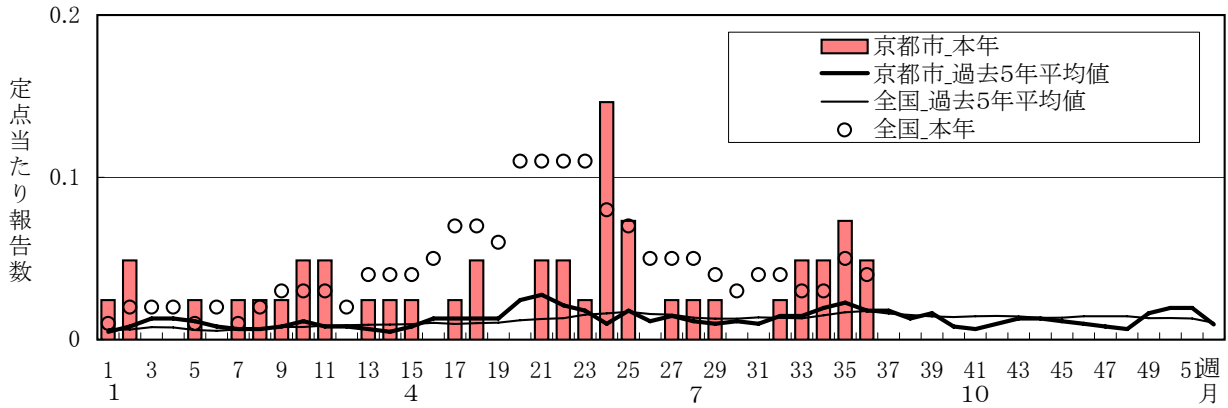
本年の第1週～第36週までの報告数推移をみると、報告のなかった週は10週だけで、ほとんどの週で報告されています。本市と全国の定点当たり報告数の推移を比較すると、ピーク時は、全国が第20週(0.11)で、本市は第24週(0.15)となっており、ほぼピークは一致しています。

年齢別にみると、5、6、9歳を除く、すべての年齢で報告されており、特に20歳以上の報告が目立ちます。

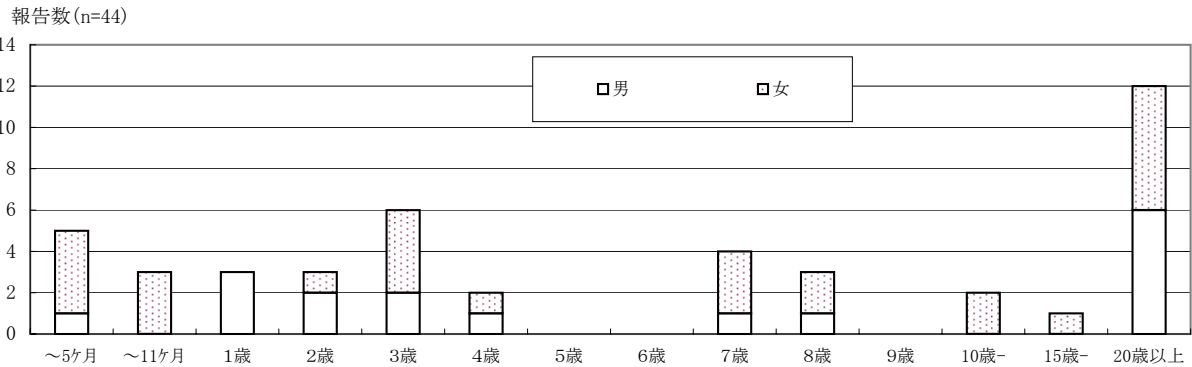
第32週から第36週までの報告数を行政区別にみると、東山で3例、右京、左京で2例、中京、山科、南で各1例ずつ報告されています。

また、定点当たり報告数の年間及び第1週～36週までの推移をみると、平成20年は第36週までの報告にもかかわらず、平成12年～平成19年の年間報告数を上回っています。

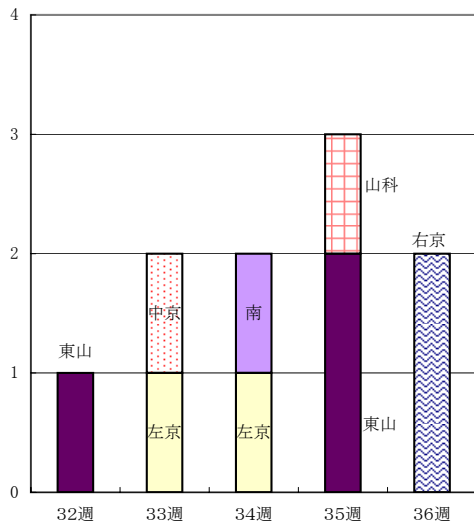
本市及び全国の定点当たり報告数の推移



本年の性別年齢別の累積報告数(第1週～第36週)



第32週～第36週の行政区別報告数の推移



京都市の定点当たり報告数の推移(平成12年～平成20年)

